

I 調査結果の概要

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

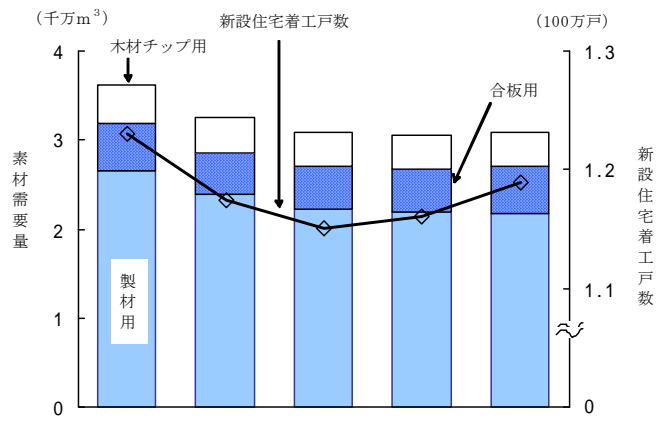
平成16年の素材の需要量は3,085万5千³m³で、前年に比べ33万9千³m³（1.1%）増加した。

これを需要部門別にみると、「合板用」は538万9千³m³で、新設住宅着工戸数の増加等により前年に比べ47万6千³m³（9.7%）増加した。また「木材チップ用」は376万1千³m³で、前年に比べ1万5千³m³（0.4%）増加した。

一方、「製材用」は2,170万5千³m³で、製材品輸入量の増加等により前年に比べ15万2千³m³（0.7%）減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が70.3%、「合板用」が17.5%、「木材チップ用」が12.2%となった。（第1表、図1）

図1 素材の需要量及び新設住宅着工戸数の推移



資料：新設住宅着工戸数は国土交通省『建築着工統計』による。

第1表 需要部門別、供給部門別素材需給

供給部門 需要部門	単位	計	国産材			外材							
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージ ーランド材	その他	
実数													
計	千 ³ m ³	30 855	15 615	13 167	2 448	15 240	1 621	828	5 953	5 858	1 396	412	
製材用	〃	21 705	11 469	11 229	240	10 236	286	48	5 898	2 810	943	299	
合板用	〃	5 389	546	514	32	4 843	1 321	779	15	2 953	453	101	
木材チップ用	〃	3 761	3 600	1 424	2 176	161	14	1	40	95	-	12	
対前年比	%												
計	%	101.1	102.9	104.5	95.4	99.3	89.2	80.3	97.0	109.4	88.5	90.0	
製材用	〃	99.3	102.3	102.7	85.4	96.2	91.1	102.1	96.9	96.0	94.6	94.0	
合板用	〃	109.7	151.7	167.4	60.4	106.4	88.7	79.7	75.0	125.9	78.2	84.9	
木材チップ用	〃	100.4	100.1	104.3	97.5	108.1	100.0	14.3	125.0	117.3	-	57.1	
構成比	%												
計	%	100.0	50.6	42.7	7.9	49.4	5.3	2.7	19.3	19.0	4.5	1.3	
製材用	〃	100.0	52.8	51.7	1.1	47.2	1.3	0.2	27.2	12.9	4.3	1.4	
合板用	〃	100.0	10.1	9.5	0.6	89.9	24.5	14.5	0.3	54.8	8.4	1.9	
木材チップ用	〃	100.0	95.7	37.9	57.9	4.3	0.4	0.0	1.1	2.5	-	0.3	

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数				2) 製材品輸入量		3) 合板輸入量		4) 紙・板紙生産量	
	実数	対前年比	うち、木造住宅	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	
	千戸	%	千戸	%	千 ³ m ³	%	千 ³ m ³	%	千t	%
平. 12	1 230	101.3	556	98.3	9 951	105.5	4 609	101.9	31 828	103.9
13	1 174	95.4	523	94.1	8 980	90.2	4 559	98.9	30 717	96.5
14	1 151	98.1	504	96.4	8 583	95.6	4 663	102.3	30 686	99.9
15	1 160	100.8	523	103.9	8 849	103.1	4 221	90.5	30 457	99.3
16	1 189	102.5	541	103.4	9 123	103.1	4 480	106.1	30 892	101.4

資料：1)は国土交通省『建築着工統計』、2)及び3)は財務省『貿易統計』、4)は経済産業省『紙・パルプ統計』による。

(2) 素材の供給

平成16年の素材の供給量（＝需要量）を国産材、外材別にみると、国産材は1,561万5千㎡で、合板加工技術の向上から、合板原料としての針葉樹が大幅に増加したこと等により前年に比べ44万4千㎡（2.9%）増加した。

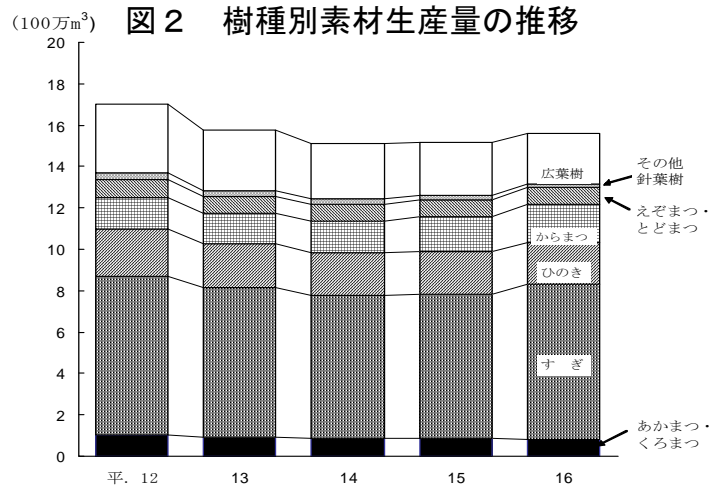
また、外材は1,524万㎡で、前年に比べ10万5千㎡（0.7%）減少した。

この結果、素材の供給量に占める国産材の割合は50.6%となり、前年（49.7%）に比べ0.9ポイント増加した。（第1表）

ア 国産材の供給

国産材供給量（素材生産量）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,316万7千㎡で前年に比べ56万2千㎡（4.5%）増加し、広葉樹は244万8千㎡で前年に比べ11万8千㎡（4.6%）減少した。

また、樹種別にみると、「すぎ」、「からまつ」が前年に比べ増加した。（第2表、図2）



第2表 需要部門別、供給部門別国産材供給量

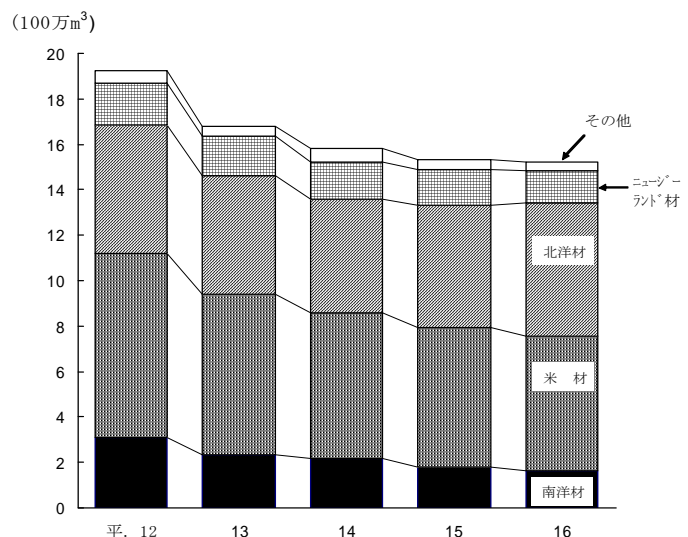
供給部 需要部門	単位	計	針葉樹							広葉樹	
			小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他		
実数											
計	千m³	15 615	13 167	816	7 491	2 004	1 849	819	188	2 448	
製材用	〃	11 469	11 229	354	6 773	1 940	1 318	714	130	240	
合板用	〃	546	514	60	266	0	171	17	0	32	
木材チップ [※] 用	〃	3 600	1 424	402	452	64	360	88	58	2 176	
対前年比	%										
計	〃	102.9	104.5	94.4	107.2	98.9	110.3	97.6	90.0	95.4	
製材用	〃	102.3	102.7	91.0	104.9	98.4	107.5	95.5	92.9	85.4	
合板用	〃	151.7	167.4	96.8	204.6	...	148.7	-	...	60.4	
木材チップ [※] 用	〃	100.1	104.3	97.3	112.7	116.4	107.1	96.7	84.1	97.5	

図3 外材供給量の推移

イ 外材の供給

外材供給量を産地材別にみると、「米材」は595万3千㎡で前年に比べ18万6千㎡（3.0%）減少した。「北洋材」は585万8千㎡で、合板産業の針葉樹への原料転換等により前年に比べ50万4千㎡（9.4%）増加し、「南洋材」は162万1千㎡で、産地国による資源的制約や木材工業の発展等により、前年に比べ19万6千㎡

（10.8%）減少した。（第1表、図3）



2 木材産業の動向

(1) 製材業

平成16年の製材業の動向をみると、12月31日現在の製材工場数（製材用動力の出力数が7.5kW未満の工場を除く。）は9,420工場で、前年に比べ5.0%減少した。製材用素材消費量は2,133万8千㎡で、前年に比べ19万3千㎡（0.9%）減少し、製材品出荷量は1,360万3千㎡で、前年に比べ2.3%減少した。（第3表、第6表、第7表）

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は9,420工場で、前年に比べ500工場（5.0%）減少した。

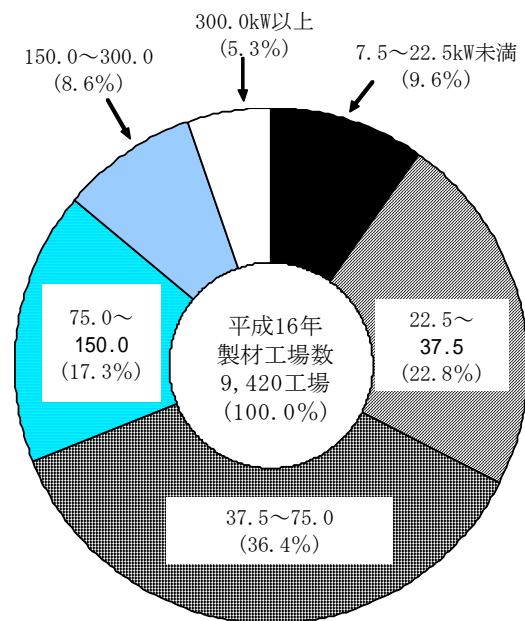
これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層で前年に比べ0.2%増加したものの、その他の階層では減少した。

また、製材用動力の総出力数は88万2,268kWで、前年に比べ2万5,981kW（2.9%）減少したものの、1工場当たりの出力数は93.7kWで、前年に比べ2.1kW（2.3%）増加した。（第3表、図4）

第3表 製材用動力の出力階層規模別工場数

出力階層	平. 16	15	対前年比 %
	工場	工場	
計	9 420	9 920	95.0
7.5~22.5kW未満	906	992	91.3
22.5~37.5	2 144	2 265	94.7
37.5~75.0	3 429	3 617	94.8
75.0~150.0	1 630	1 706	95.5
150.0~300.0	814	844	96.4
300.0 kW以上	497	496	100.2
総出力数	882 268	908 249	97.1
1工場当たり 出力数	93.7	91.6	102.3

図4 製材用動力の出力階層別
工場数の構成割合



イ 製材工場従業者数

12月31日現在（12月操業）の従業者数は5万5,118人で、前年に比べ3,475人（5.9%）減少した。また、1工場当たりの従業者数は5.9人で、前年並みとなった。

9,420工場のうち、12月に操業した製材工場数は9,407工場で、前年に比べ468工場（4.7%）減少した。（第4表）

第4表 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	単位	従業者数規模別製材工場数（12月操業）							従業者数 (12月31日現在)
		計	4人以下	5~9	10~19	20~29	30~49	50人以上	
実数	平. 16 工場	9 407	5 593	2 393	1 051	237	97	36	55 118
	15 //	9 875	5 871	2 553	1 063	252	99	37	58 593
対前年比	平. 16 %	95.3	95.3	93.7	98.9	94.0	98.0	97.3	94.1
	15 //	95.0	97.9	90.1	93.7	90.0	90.0	92.5	93.9
構成比	平. 16 %	100.0	59.5	25.4	11.2	2.5	1.0	0.4	1) 5.9
	15 //	100.0	59.5	25.9	10.8	2.6	1.0	0.4	1) 5.9

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は2,170万5千㎡で、前年に比べ15万2千㎡(0.7%)減少した。

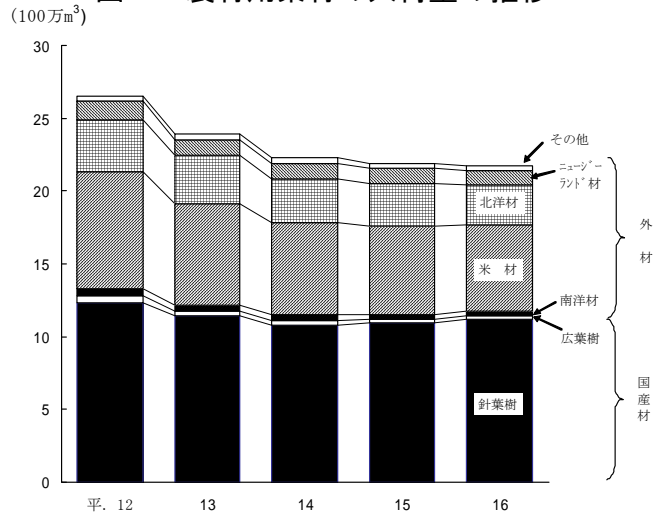
これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,146万9千㎡で前年に比べ2.3%増加し、外材の入荷量は1,023万6千㎡で前年に比べ3.8%減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は52.8%で、前年を1.5ポイント上回った。

国産材の入荷量を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,122万9千㎡で、前年に比べ2.7%増加し、広葉樹は24万㎡で前年に比べ14.6%減少した。

外材の入荷量を産地別にみると、「米材」は589万8千㎡、「北洋材」は281万㎡、「ニュージーランド材」は94万3千㎡、「南洋材」は28万6千㎡で、前年に比べそれぞれ3.1%、4.0%、5.4%、8.9%減少した。(第1表、図5)

図5 製材用素材の入荷量の推移



(イ) 素材の入荷があった製材工場は9,387工場、前年に比べ463工場(4.7%)減少した。

これを入荷類型別の工場数でみると、「国産材のみ」は4,913工場、「国産材と外材」は3,370工場、「外材のみ」は1,104工場、前年に比べそれぞれ1.6%、7.6%、8.6%減少した。

入荷量でみると、「国産材のみ」の工場は921万1千㎡で前年に比べ4.5%増加し、「国産材と外材」の工場は457万7千㎡、「外材のみ」の工場は791万7千㎡で、前年に比べそれぞれ7.9%、2.0%減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kw以上の工場が入荷量全体の半数近くを占めている。(第5表)

第5表 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位 { 工場数:工場
入荷量:千㎡³

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
実数								
計	9 387	21 705	4 913	9 211	3 370	4 577	1 104	7 917
7.5 ~ 22.5kw未満	900	194	613	127	223	50	64	17
22.5 ~ 37.5	2 138	862	1 253	472	749	341	136	49
37.5 ~ 75.0	3 415	2 728	1 733	1 407	1 351	947	331	374
75.0 ~ 150.0	1 626	3 483	689	1 514	647	1 098	290	871
150.0 ~ 300.0	812	3 859	387	2 038	279	941	146	880
300.0 kw以上	496	10 579	238	3 653	121	1 200	137	5 726
対前年比(%)								
計	95.3	99.3	98.4	104.5	92.4	92.1	91.4	98.0
7.5 ~ 22.5kw未満	91.1	69.8	91.5	71.3	90.7	54.3	88.9	212.5
22.5 ~ 37.5	95.2	91.5	98.3	93.1	93.0	95.5	82.4	62.8
37.5 ~ 75.0	95.4	95.5	99.6	101.1	92.0	93.2	89.0	83.1
75.0 ~ 150.0	95.6	94.1	99.1	98.4	91.3	91.1	98.0	90.9
150.0 ~ 300.0	96.6	97.3	100.8	105.3	95.9	92.1	88.0	87.1
300.0 kw以上	100.0	104.6	103.0	112.0	94.5	94.1	100.0	102.7

注：工場数は、平成16年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は2,133万8千m³で、前年に比べ19万3千m³（0.9%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kw以上の階層で前年に比べ4.6%増加したものの、その他すべての階層で減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,265m³で、前年に比べ95m³（4.4%）増加した。（第6表）

第6表 製材用動力の出力階層別製材用素材消費量

出力階層	素材消費量			1工場当たり 素材消費量	
	対前年比	構成比		対前年比	
	千m ³	%	%	m ³	%
計	21 338	99.1	100.0	2 265	104.4
7.5 ~ 22.5kw未満	191	74.6	0.9	211	81.8
22.5 ~ 37.5	823	90.9	3.9	384	96.0
37.5 ~ 75.0	2 665	94.6	12.5	777	99.7
75.0 ~ 150.0	3 441	94.1	16.1	2 111	98.6
150.0 ~ 300.0	3 764	96.3	17.6	4 624	99.9
300.0kw以上	10 454	104.6	49.0	21 034	104.4

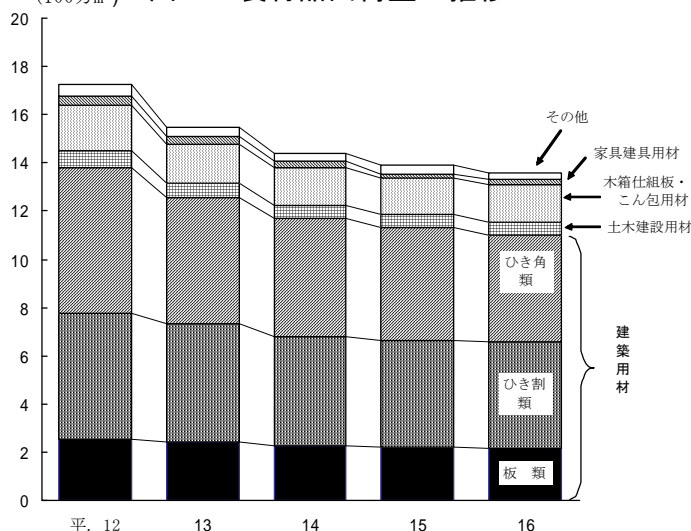
オ 製材品出荷量

製材品出荷量は1,360万3千m³で、前年に比べ32万6千m³（2.3%）減少した。（第7表）

出荷量を用途別にみると、「木箱仕組板・こん包用材」は157万1千m³で5.5%増加したものの、「建築用材」は1,102万3千m³、「土木建設用材」は52万m³、「家具建具用材」は19万6千m³で、前年に比べそれぞれ2.7%、1.5%、8.0%減少した。（図6）

また、人工乾燥材出荷量は210万9千m³で前年に比べ8.8%増加した。（第7表）

図6 製材品出荷量の推移



第7表 製材品出荷量

単位：千m³

年次	製材品 出荷量	うち、 人工乾燥 材出荷量	建築用材				土木建設 用材	木箱仕組 板・こん 包用材	家具建具 用材	その他
			小計	板類	ひき割類	ひき角類				
実数										
平. 12	17 231	...	13 813	2 508	5 280	6 025	698	1 862	368	490
13	15 486	1 547	12 577	2 421	4 935	5 221	613	1 588	313	395
14	14 402	1 790	11 675	2 244	4 542	4 889	578	1 536	255	358
15	13 929	1 938	11 326	2 198	4 439	4 689	528	1 489	213	373
16	13 603	2 109	11 023	2 181	4 379	4 463	520	1 571	196	293
対前年比 (%)	97.7	108.8	97.3	99.2	98.6	95.2	98.5	105.5	92.0	78.6
構成比 (%)	100.0	15.5	81.0	16.0	32.2	32.8	3.8	11.5	1.4	2.2

(2) 合単板製造業

平成16年の合単板製造業の動向をみると、12月31日現在の合単板工場数は287工場で、前年に比べ1.7%減少した。

普通合板の製造量は314万9千㎡で、前年に比べ4.1%増加し、特殊合板の製造量は110万㎡で、前年に比べ3.6%減少した。(第8表、第10表、第11表)

ア 合単板工場数及び従業者数

合単板工場数は287工場で、前年に比べ5工場(1.7%)減少した。

これを従業者数規模別にみると、50人未満の工場が209工場で、全体の72.8%を占めている。

従業者数は1万3,296人で前年に比べ0.2%減少し、1工場当たりの従業者数は46.3人で前年に比べ0.7人増加した。(第8表)

第8表 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数(12月31日現在)

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり 従業者数
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
計	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
	287	98.3	107	102	34	30	8	6	13 296	99.8	46.3
単板のみ	30	96.8	10	14	4	1	1	-	941	97.2	31.4
普通合板のみ	43	100.0	1	11	9	17	5	- } ¹⁾ 2 } ²⁾	6 048	100.7	} ¹⁾ } 106.1
普通合板と 特殊合板	14	100.0	3	3	3	3	-				
特殊合板のみ	200	98.0	93	74	18	9	2	4	6 307	99.2	31.5

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は538万9千㎡で、前年に比べ9.7%増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は54万6千㎡、外材は484万3千㎡で、前年に比べそれぞれ51.7%、6.4%増加した。

また、針葉樹材の入荷量をみると、国産材は51万4千㎡、外材は330万4千㎡で、それぞれ前年に比べ67.4%、14.3%増加した。(第9表)

第9表 単板製造用素材入荷量

単位：千㎡³

年次	入 荷 量				
	計	国産材	外 材		
			うち、針葉樹	うち、針葉樹	
平. 12	5 401	138	...	5 263	...
13	4 651	182	...	4 469	...
14	4 724	279	224	4 445	2 539
15	4 913	360	307	4 553	2 890
16	5 389	546	514	4 843	3 304
対前年比 (%)	109.7	151.7	167.4	106.4	114.3
構成比 (%)	100.0	10.1	9.5	89.9	61.3

ウ 普通合板製造量

普通合板製造量は314万9千㎡で、新設住宅着工戸数の増加による構造用合板の需要が増加したこと等から、前年に比べ12万5千㎡（4.1%）増加した。

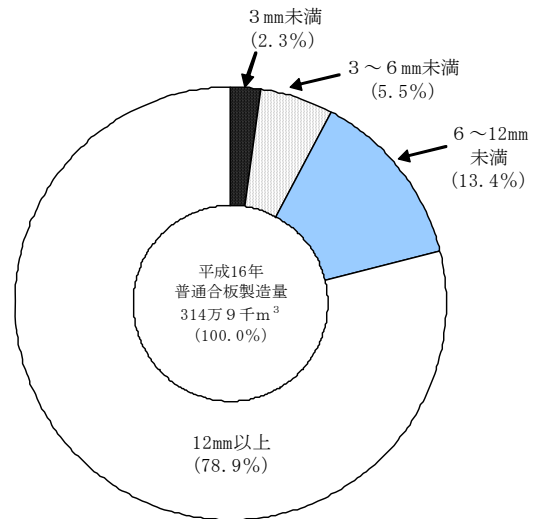
これを厚さ別にみると、「3mm未満」及び「3～6mm未満」は前年に比べそれぞれ28.1%、6.9%減少したものの、「6～12mm未満」及び「12mm以上」はそれぞれ、2.9%、6.6%増加した。

また、製造量のうち、針葉樹合板製造量は215万㎡で、前年に比べ27万7千㎡（14.8%）増加した。（第10表、図7）

第10表 普通合板製造量

区 分	平.16	15	対前年比
	千㎡ ³	千㎡ ³	%
普通合板製造量	3 149	3 024	104.1
3 mm 未 満	71	99	71.9
3 ～ 6 mm	172	185	93.1
6 ～ 12 mm	421	409	102.9
12 mm 以 上	2 485	2 331	106.6
針葉樹合板製造量	2 150	1 873	114.8

図7 普通合板の厚さ別製造量割合



エ 特殊合板製造量

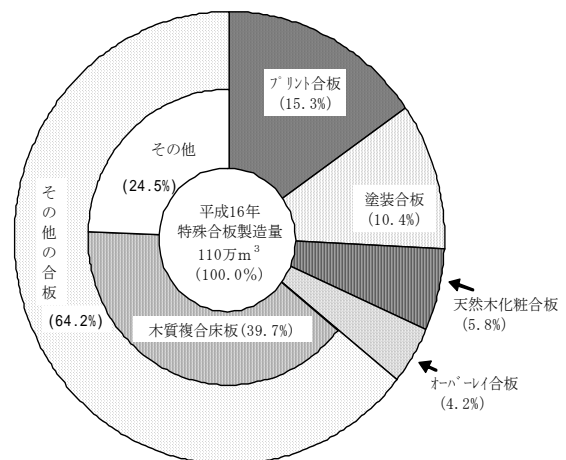
特殊合板製造量は110万㎡で、前年に比べ4万1千㎡（3.6%）減少した。

これを種類別にみると、「その他の合板」は前年に比べ1.3%増加し、「オーバーレイ合板」、「プリント合板」、「塗装合板」及び「天然木化粧合板」で前年に比べそれぞれ14.8%、4.7%、15.6%、17.0%減少した。（第11表、図8）

第11表 特殊合板製造量

区 分	平.16	15	対前年比
	千㎡ ³	千㎡ ³	%
特殊合板製造量	1 100	1 141	96.4
オーバーレイ合板	46	54	85.2
プリント合板	168	177	95.3
塗 装 合 板	115	136	84.4
天然木化粧合板	64	77	83.0
その他の合板	707	698	101.3
うち、木質複合床板	437	617	70.8

図8 特殊合板の種類別製造量割合



(3) 木材チップ製造業

平成16年の木材チップ製造業の動向をみると、12月31日現在の木材チップ工場数は2,106工場で、前年に比べ4.3%減少した。生産量は578万2千t、出荷量は577万tであった。(第12表、第14表)

ア 木材チップ工場数及び従業者数

木材チップ工場数は2,106工場で、前年に比べ95工場(4.3%)減少した。

これを経営形態別にみると、「木材チップ専門工場」は364工場と前年に比べ1.1%減少し、「製材又は合板工場を兼営しているもの」は1,742工場で前年に比べ5.0%減少した。

木材チップ工場の従業者数は4,409人で、前年に比べ135人(3.0%)減少した。これを従業者数規模別にみると、9割近くが「4人以下」の小規模工場で占められている。

また、1工場当たりの従業者数は2.1人で、前年並みであった。(第12表)

第12表 経営形態別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数

経営形態別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たりの従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	2 106	95.7	1 881	159	48	18	4 409	97.0	2.1
木材チップ専門工場	364	98.9	195	117	38	14
製材又は合板工場を兼営しているもの	1 742	95.0	1 686	42	10	4

注：「木材チップ専門工場」及び「製材又は合板工場を兼営しているもの」別に従業者数の集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は376万1千m³で前年に比べ1万5千m³(0.4%)増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は360万m³、外材の入荷量は16万1千m³で、前年に比べそれぞれ0.1%、8.1%増加した。(第13表)

第13表 木材チップ用素材入荷量

	単位：千m ³		
	計	国産材	外材
実数			
平.12	4 336	4 098	238
13	4 062	3 826	236
14	3 857	3 671	186
15	3 746	3 597	149
16	3 761	3 600	161
対前年比(%)	100.4	100.1	108.1
構成比(%)	100.0	95.7	4.3

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

木材チップ生産量は578万2千tであった。

これを原材料別にみると、「素材(原木)」は213万9千t、「工場残材」は219万8千t、「林地残材」は5万8千t、「解体材・廃材」は138万8千tであった。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は293万8千t、「広葉樹」は145万6千m³であった。

出荷量は577万tであった。(第14表、図9)

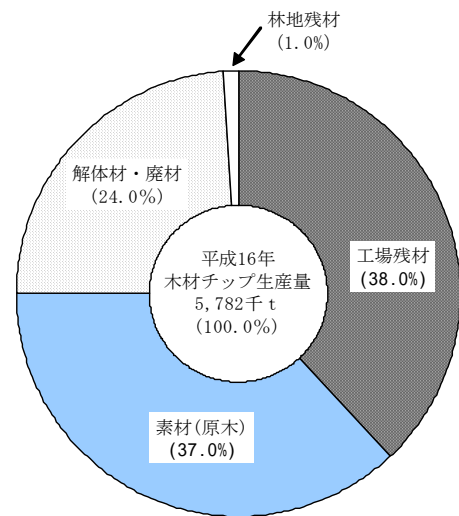
第14表 木材チップの生産量及び出荷量

単位：千 t

区 分	平. 16
木材チップ生産量計 (原材料別)	5 782
素材（原木）	2 139
工場残材	2 198
林地残材	58
解体材・廃材	1 388
(針葉樹・広葉樹別)	
針葉樹	2 938
広葉樹	1 456
木材チップ出荷量	5 770

注：針葉樹・広葉樹別には、解体材・廃材は含んでいない。（以下同じ。）

図9 木材チップにおける原材料別生産量割合



(参考)

木材チップ統計調査は、平成16年調査より木材チップの取引実態に合わせ、木材チップ生産量の調査単位を m^3 （容積）から t （絶乾重量）に変更した。

この変更に伴い、平成15年との比較を行うため、素材（原木）、工場残材、林地残材については、林野庁が木材需給表作成に使用している換算率（針葉樹： $1 t = 2.2 m^3$ 、広葉樹： $1 t = 1.7 m^3$ ）を用い容積換算を行った。

なお、解体材・廃材については、平成16年調査より針葉樹・広葉樹別の把握を中止したが、上記の換算率及び過去5年間の針葉樹・広葉樹別木材チップ生産量（容積単位）のウェイトにより加重平均し算出した換算率（ $1 t = 2.1 m^3$ ）を用い容積換算を行った。

(参 考) 木材チップ生産量（容積換算）

区 分	平. 16	15	対前年比 %
	$千m^3$	$千m^3$	
木材チップ生産量 (原材料別)	11 854	11 880	99.8
素材（原木）	4 051	3 786	107.0
工場残材	4 769	4 861	98.1
林地残材	121	143	84.6
解体材・廃材	2 913	3 090	94.3
(針葉樹・広葉樹別)			
針葉樹	6 465	6 235	103.7
広葉樹	2 476	2 555	96.9

3 木材価格の動向

平成16年の木材価格の動向をみると、素材価格は国産材が生産量の増加と外材製材品の輸入増加等の影響から低下傾向、外材は船運賃の値上がりや原木不足等の影響から上昇傾向となった。しかし、木材製品卸売価格は住宅ローン減税の駆け込み需要等の影響から、平均価格は前年に比べ国産材・外材ともに上昇傾向となった。

(1) 素材価格（丸太価格）（第15表、図10）

ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）の価格は年の前半は低下傾向で推移し、後半はやや持ち直したものの、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万6,700円で前年に比べ700円低下した。

イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）の価格は低下傾向で推移し、年の後半はやや持ち直したものの、年平均では1万3,500円で前年に比べ800円低下した。

ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）の価格は低下傾向で推移し、年平均では2万9,400円で前年に比べ2,200円低下した。

エ 「なら大丸太」（径40.0～48.0cm、長2.4m上）の価格は安定した価格で推移したが、年平均では3万4,100円で前年に比べ1,000円低下した。

オ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上）の価格は上昇傾向で推移し、年平均では2万2,600円で前年に比べ1,200円上昇した。

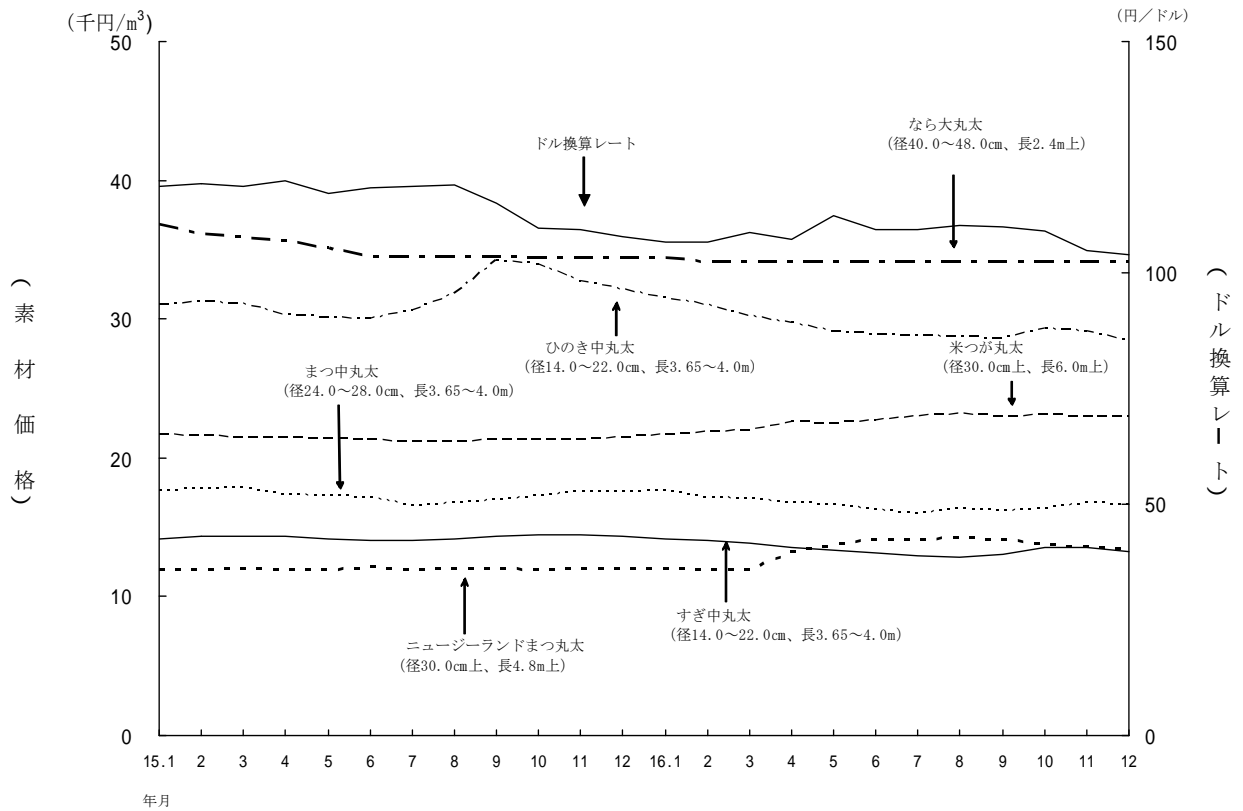
カ 「ニュージーランドまつ丸太」（径30.0cm上、長4.8m上）の価格は年の前半は上昇傾向で推移したが、後半では低下傾向で推移したものの、年平均では1万3,400円で前年に比べ1,400円上昇した。

第15表 素材価格

単位：1㎡当たり円

年次	まつ	すぎ	ひのき	なら	米つが	ニュージーランド
	中丸太	中丸太	中丸太	大丸太	丸太	まつ丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 40.0～48.0 cm 長 2.4 m上	径 30.0 cm上 長 6.0 m上	径 30.0 cm上 長 4.8 m上
	込 み	込 み	込 み	込 み	No.3	込 み
平均価格						
平. 13	19 500	15 700	37 800	39 600	21 900	11 800
14	17 600	14 000	31 500	38 500	21 700	11 800
15	17 400	14 300	31 600	35 100	21 400	12 000
16	16 700	13 500	29 400	34 100	22 600	13 400
対前年差						
平. 13	400	1 500	2 400	600	400	200
14	1 900	1 700	6 300	1 100	200	0
15	200	300	100	3 400	300	200
16	700	800	2 200	1 000	1 200	1 400

図10 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (第16表、図11)

ア 製材品

- (ア) 「すぎ正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は年の前半は低下傾向で推移したが、後半は安定した価格で推移し、年平均では4万2,700円で前年に比べ300円上昇した。
- (イ) 「ひのき正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は低下傾向で推移したものの、年平均では7万600円で前年に比べ1,000円上昇した。
- (ウ) 「米つが正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) の価格は上昇傾向で推移しており、年平均では5万2,700円で前年に比べ2,100円上昇した。
- (エ) 「北洋えぞまつ板」 (径1.2~1.5cm、幅15.0cm、長3.65~4.0m) の価格は年間を通して安定した価格で推移し、年平均では4万6,100円で前年に比べ100円上昇した。

イ 合板

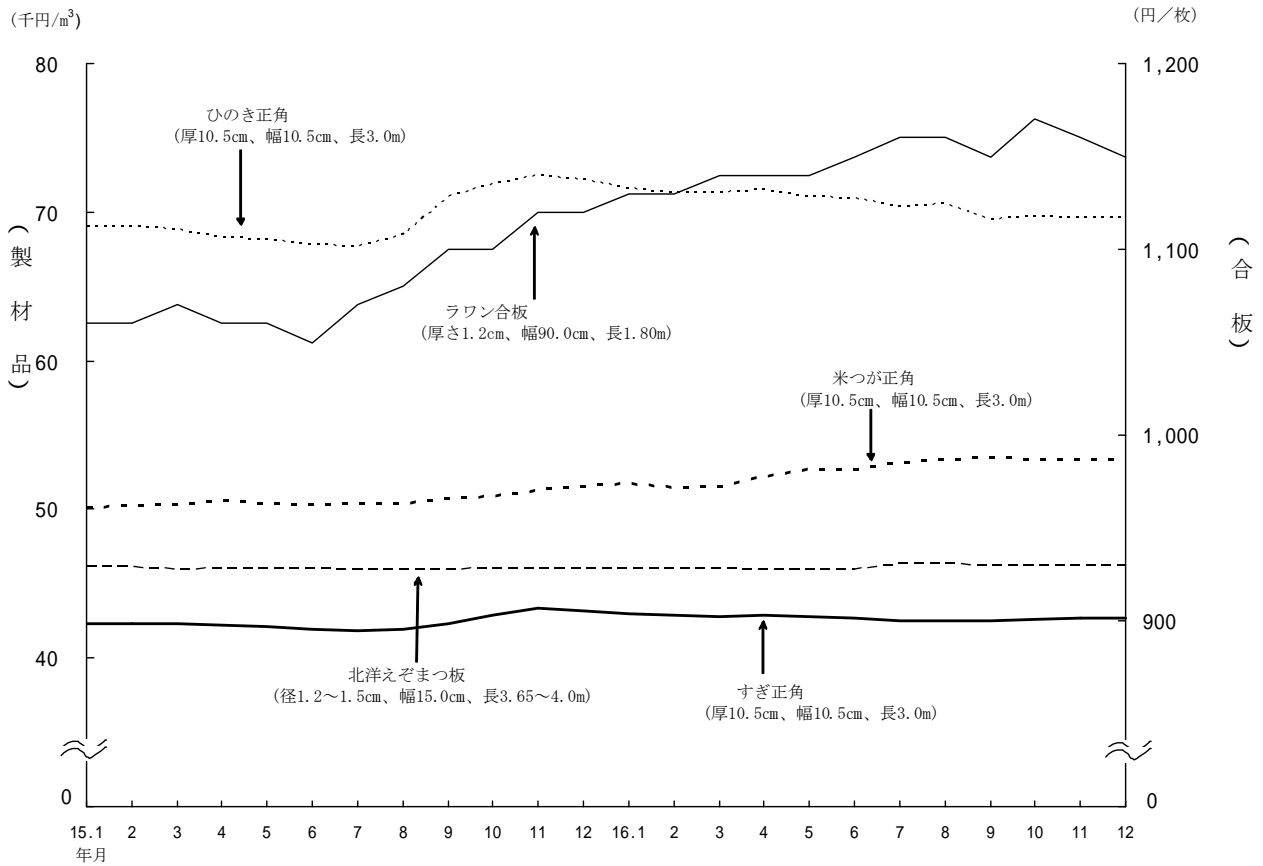
「ラワン合板」 (厚1.2cm、幅90.0cm、長1.80m) の価格は年の前半は上昇傾向で推移し、後半は下降傾向に転じたものの、年平均では1,150円で前年に比べ70円上昇した。

第16表 木材製品卸売価格

単位：1m³当たり円

年次	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角	北洋えぞまつ板	ラワン合板 (1枚当たり)
	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	径 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 1.2 cm 幅 90.0 cm 長 1.80 m
	2 級	2 級	2 級	1 級	コンクリート型枠
平均価格					
平. 13	44 700	73 000	49 000	47 300	970
14	42 000	69 100	49 100	46 500	1 030
15	42 400	69 600	50 600	46 000	1 080
16	42 700	70 600	52 700	46 100	1 150
対前年差					
平. 13	2 600	2 700	1 100	500	0
14	2 700	3 900	100	800	60
15	400	500	1 500	500	50
16	300	1 000	2 100	100	70

図11 木材製品卸売価格の推移



(3) 木材チップ価格 (第17表、図12)

木材チップの価格は、年間を通して安定した価格で推移しており、針葉樹は 5,200円で前年並み、広葉樹は8,500円で前年に比べ100円低下した。

第17表 木材チップ価格

単位：円

年次	針葉樹	広葉樹
	パルプ向け	パルプ向け
平均価格		
平. 13	...	9 200
14	5 300	8 900
15	5 200	8 600
16	5 200	8 500
対前年差		
平. 13	...	300
14	...	300
15	100	300
16	0	100

図12 木材チップ価格の推移

